

嘉悦孝子（おけい） 女子教育家。慶應二年一月二十六日肥後國生れ、昭和二十四年二月五日歿（八七一―九四九）。本名孝、幼名鷹。號孤芳。父は横井小楠門下の高足嘉悦氏房。父の開心丸廣取塾に學ぶ。明治二十年上京、二十一年成女學舎本科卒。高等科に進み、兼く助教となる。二十五年歸郷して鶴城學館に教鞭を執る。二十九年再上京、女紅學校教師、成女學校全監を経て、二十八年私立女子商業學校（のちの嘉悦學園）を創立、和田坦謙を初代校長とした。

著書『學校生活』（明治二十六年七月二日新聲社「教育家庭小説」）、『新家庭』（明治二十七年一月十五日金港堂書籍株式會社「家庭小説」）、『學校生活』（明治二十七年一月二十六日金港堂書籍株式會社「家庭小説」）、『主婦と女中』（明治四十年九月十二日金港堂書籍株式會社）、『現在の生活費から思はぬ貯金と産み出す法』（四版）  
・大正五年二月十二日中外社出版部・春秋社書店）、『萬龍未來記』

（合著・野元北馬編、大正五年十一月一日須原啓興社）、『女の務むべき道』（大正六年五月五日泰山房）、『心のいしき』（合著・愛友會編、大正六年十月一日明文堂）、『現代語 評釋 女四書』（譯、大正十五年五月十五日聚英閣教育部）、嘉悦博知著『九十九集』（内題「つくと集」孝子執筆、昭和五年九月二十

五日翠光會）、『私の進言』（小森猛編、昭和十一年十月二十日明治書



房）、『わが母

を語る』（合著

・家庭新聞社編



藤部、新妻伊都子編、昭和十六年十一月、日家庭新聞社出版部（等）。

嘉悦弘人著『嘉悦老傳』（昭和二十四年十一月）日好江書房）、嘉悦

康人著『嘉悦孝子伝』明治・大正・昭和三代を生きた女流教育家』（昭

和四十八年十一月十五日浪曼）刊。